

MACF 礼拝説教要旨

2023 年 1 月 22 日

【束縛と自由と偽善】

ルカによる福音書 13 章 10～17 節

10 安息日に、イエスはある会堂で教えておられた。

11 そこに、十八年間も病の霊に取りつかれている女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。

12 イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病気は治った」と言って、

13 その上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美した。

14 ところが会堂長は、イエスが安息日に病人をいやされたことに腹を立て、群衆に言った。「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」

15 しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。16 この女はアブラハムの娘なのに、十八年間も間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

17 こう言われると、反対者は皆恥じ入ったが、群衆はこぞって、イエスがなされた数々のすばらしい行いを見て喜んだ。

イエス様による奇跡の物語です。

18 年間も病に侵されており腰を伸ばすことができずにいた女性。

この女性の存在はおそらく会堂に集っている人たちなら 18 年前から知っていただろうと思います。

おそらく「気の毒な人だなあ」という思いはみんな持っていたのではないかと思います。

結論から言うと、イエス様がその会堂でお話になり、その女性と出会い、イエス様は彼女を病から解放し曲がっていた腰が伸びる様になり、彼女は大喜びで神を賛美し、礼拝しました。という流れです。

1) 18 年間の束縛の中で

この女性について、どう感じますか？

18 年間もの間、病気に悩み、腰が曲り、生活にも困窮していたのではないかと思います。

思うに、彼女の中には大きな葛藤があったと思います。

どうして自分ばかりがこんな苦勞をするのか？
神様は私を直してくださらないのか？
何故、この病気に苦しみ続けなければいけないのか？
本当に神様はいらっしゃるのか、いるとしたら、何故、この苦しみから解放されないのか？
自分に落ち度や罪があるのか、身内の誰かが特別な悪いことをしたのか？
などなど。
そして、会堂にやってきて聖書の教えを聴き、神様に求め、願い、18年。

何故、彼女は18年も会堂に来続けたのでしょうか。
それは、おそらく、他に行く場所がなかったし、他に助けを求める人もいないしそこにしか、希望の探し場所がなかったからではないでしょうか。

こんな状況が続くなんて、神などいないのではないかと感じることはおそらく多くの方々が経験しておられることだと思います。
でも、神などいないと断言した途端、希望の探し場所がなくなってしまうことになるのではないのでしょうか。
神なんていない、と言うことは簡単ですが、それを言い切ってしまったら自分の逃げ場も隠れ場も希望も断念することにならないのでしょうか。
彼女は、悩み、葛藤し、いつまでですかと問いながら、会堂に来ていたのではないかと思います。
そして、イエス様からの声を聞く日がきました。
希望の声を聞いたのです。
それは、待ちに待った日でした。
彼女は神を賛美しました。そこにこそ希望を託していたからです。
悲しいことですが、希望を持っていても、それが叶わずに人生が終わる人もいるのは事実です。

では、その人の人生は無駄だったのでしょうか？
いいえ、神に希望をおいて会堂にやってきて、祈る姿、歌う姿に多くの人は感動さえおぼえたのではないのでしょうか。というのは、その姿で人の前に出ることや人の中に参加することは容易なことではなかったでしょうし、おそらく、自分のことばかりでなく、他者の事についても、同情したり祈ったりしている姿を多くの人が目撃したに違いないからです。つまり、その存在自体がその集団の中で大きな慰めになった可能性があるのです。「あの人が、いなくなって寂しいねえ」と覚えてもらえることは大きな意義があります。
ですから、主題は「癒されたからよかった」という部分だけでなく18年間の彼女の

葛藤の中での存在自体が、大きな意義を持っていたという事なのです。

2) 安息日

しかし、ここでは癒しが体験され、その日は「安息日」でした。

こういうパターンは新約聖書にはよく書かれています。

当時の社会では、今でもある部分は実行されていますが、安息日というのは活動停止の日でした。今でもエルサレムのホテルなどで安息日にエレベーターに乗るときには指でボタンを押すことを労働とみなし、各階止まりの自動運転がなされています。

もちろん、それは本来の安息日の過ごし方とは異なっています。

安息日というのは神が創造のわざを休まれたというところから始まっていて

被造物がゆったり神様に感謝を捧げ、安息するための日だったはずですが。

ところが宗教規定の中に組み込まれ、「ねばならない」という規則が山のように

作られ、安息日は外側から見るととても「不便の多い休みの日」であり「間違っただけを
してはいけない」という一番気を使って過ごす日になってしまいました。

イエス様の時代はまさに、そうでした。

ですから、安息日に、これほど深刻な病気で 18 年間も悩んでいた人が

解放され、神を賛美したくなる心でいっぱいになっているのに

「この日はだめだ」と決めつけ、イエス様に向かって「どうしてこんなことを

安息日に実行したのだ」と詰問する様子が書かれています。

クレームを付けた人は「宗教人」であり「律法を教える立場」に

ある人でしたが、18 年間苦勞してきた人の痛みや重荷、悲しみ、苦しみ、痛み

からの解放を喜ぶことよりも「規則を守る」ことのほうが重要だと考えていたのです。

イエス様は

「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。16 この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

と語り、牛やろばに向けられている「生きるを励ます作業」をどうしてこういう人に向けることができないのかと語ります。

牛やろばには当たり前のように共感できるのに、この女性には放置しか感じられない、

考えられないとすれば、そこには愛はないでしょうね。

イエス様は、その部分を語り、私達へのメッセージとしても、語っていると思います。

3) 偽善者

この人が「痛みから解放され花を見て喜べるような、腰を伸ばしてしっかり歩き、元気を回復するような」ことを神様が望んでいるのに、「ムリムリ、この日は、そういうチャンスはありません。動いてはいけない日ですから。」と断定し、人の行動を無理に抑制したり、禁止したりすることは神様の心に反しており偽善者の発想だとイエス様は語るのです。

会堂長としては自分は正しいことを主張しているという自負があったと思います。

でも、イエス様は彼のことを「偽善者」と呼んでいます。

会堂長の役目は神様の心を示し、教え、それを励ますことにありました。

そして、神様の心は「人への思いやり、愛」であり、指導者はそれを土台に共感・共苦を心で生きることが期待されていました。

でも、この会堂長には、規則通り、形式通りに実行すること以外、発想がありませんでした。

「規則のために人間がいる」ような発想でした。

イエス様の発想は「人の祝福のために規則があるのだ」というものでした。

考えようによれば、規則に縛られて生きている方が楽な感じがします。

考えなくて済むからです。

でも、それでは神様がなさろうとしている新しい感動のわざを理解できませんしそもそもイエス様がもたらそうとする「安息日ですえも、束縛からの解放がある」という神様の人間に対する祝福をを理解することはできません。

イエス様は「束縛からの解放」を訴えています。

そして、この 18 年間病魔にさいなまされていた人が、神を賛美するという出来事の中にそれを確実に認識できました。

私達はいろいろな経験を積んでくると、気づかないうちに「偽善的な」意識を「仕方のないことだ」と感じたり、人に対しても必要以上に厳しく「こうあらねばならない」ということを要求したりすることがあるように思います。

必要なのは「牛やロバを生かすために水を飲ませ、食べ物を食べさせることができているのに、どうして人にその心が表明できないのか」というイエス様からのチャレンジに誠実に応答する心です。

4) 偽善者のような・・・

私たちはいろいろな枠を設けて、できるだけ人に深入りしないように関わることで迷惑を被らないようにと考える傾向があります。

確かに、何から何まで、共感したり、共苦したりすることはできません。

でも、声をかけること、挨拶すること、その人のことを心に留めて祝福を祈ること、など何かしらアクションのいとぐちを感じ取ることはとても大切なことだと思います。

こちらから挨拶したけれど、挨拶が返ってこなかった、とか、これだけのものを送ったのに感謝されなかったとか、いろいろ傷つくこともあるかもしれません。

でも、そういう営みの中にこそ、絆は作られていき、関係が生まれていきます。

神様の思いはそこにあるのです。つまり、そういうやり取りの中にこそ「神様の恵みや祝福を味わうチャンス」があるのです。

会堂長たちは、自分たちの枠を強調するあまり、「神様の喜びを共有すること」を拒んだのです。

傷つくことを恐れすぎて「挨拶しない」「笑顔もみせない」という意識はどこかで偽善的な行動に向かわせる種を含んでいます。

「神様、今日、誰かに笑顔を見せ、挨拶することができますように」という祈りは私たち一人ひとりにとって、大切な祈りだと思います。

偽善者のような生き方だなと気付いたとき、イエス様の言葉を思い出しましょう。

犬や猫に挨拶することから始めても良いかもしれません。

解放への大きな一歩になるはずです。

* * *

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/GmcSM1-guy4>